

科目名	介護実習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	平山 恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	介護老人保健施設において介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年生						
授業概要	個別ケアを行うために個々のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○					
	○		○				
	○						
	○		○				
目標	コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる						
目標	利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる						
目標	学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を理解できる						
目標	多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる						
目標	計画的に実習の課題に取り組むことができる						
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る			日々の実習記録の記載		
	2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する			日々の実習記録の記載		
	3	利用者と自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる			日々の実習記録の記載		
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する			日々の実習記録の記載		
	5	介護過程の展開実践のための受け持ち利用者の決定			日々の実習記録の記載・フェイスシートの完成		
	6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する 生活支援技術実践のための見学を行う			日々の実習記録の記載		
	7	コミュニケーションから情報収集を行う。 指導者の指示のもと根拠に基づく生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載		
	8	他専門職から得られる情報を収集する			日々の実習記録の記載		
	9	フェイスシート、状況シートを記入し指導者からの確認を受ける			日々の実習記録の記載		
	10	中間カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う			日々の実習記録の記載・状況シートの完成・カンファレンスレポートの作成		
	11	介護過程の実践(アセスメント) 1日の流れを理解し自ら進んで業務に参加する			日々の実習記録の記載		
	12	アセスメントの実践 根拠を理解した生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載・アセスメント表の完成		
	13	アセスメントを指導者へ確認、指導を受ける 根拠を理解した生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載		
	14	不足している情報の収集 レクリエーションなどの企画運営 夜勤業務の実践			日々の実習記録の記載		
	15	不足している情報の収集 自ら考えて様々な業務を見学する			日々の実習記録の記載・個別援助計画の完成		
	16	再アセスメントの必要性について考察 介護福祉職以外の職種について見学等を行い、多職種連携を学ぶ			日々の実習記録の記載・実施、評価の記録		
	17	再アセスメントの必要性について考察 昨日の学びを通して、チームケアについて考察する			日々の実習記録の記載		
	18	これまでの学びを通して、施設の社会的役割を理解する 介護福祉士の倫理観や専門性について考察する			日々の実習記録の記載		
	19	アセスメント実践のまとめ すべての生活支援技術について習熟度の確認			日々の実習記録の記載・プロセスレコードの完成		
	20	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う			日々の実習記録の記載・最終カンファレンスレポートの提出		
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。 A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習態度		◎	○	◎		50%
	記録提出		◎	○	◎		50%
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	からだのしくみⅡ						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学知識を学ぶ。また、『障害の理解』『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度	目標		
	○				生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について学び、関連した疾患の概要を説明することができる。		
	○				代表的な疾患や症状を知ったうえで、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。		
	○				介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。		
	○				利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。		
			○		利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央法規出版 介護福祉士養成講座14 - ころとからだのしくみ 中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	入浴・清潔保持に関連したしくみ①入浴・清潔保持の意義・目的、入浴の作用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	入浴・清潔保持に関連したしくみ②入浴・清潔保持のからだどころのしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	入浴・清潔保持に関連したしくみ③心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	入浴・清潔保持に関連したしくみ④変化の気づきと対応、医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	排泄に関連したしくみ①排泄の意義・目的、ころのしくみ			<ul style="list-style-type: none"> 前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 		
	6	排泄に関連したしくみ②排尿・排便のからだのしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	排泄に関連したしくみ③心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	排泄に関連したしくみ④変化の気づきと対応、医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	睡眠に関連したしくみ①睡眠の意義・目的、眠りのリズム			<ul style="list-style-type: none"> 前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 		
	10	睡眠に関連したしくみ②心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	睡眠に関連したしくみ③変化の気づきと対応、医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	死にゆく人に関連したしくみ①「死」を理解する、「死」の定義、全人的苦痛			<ul style="list-style-type: none"> 前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 		
	13	死にゆく人に関連したしくみ②終末期における心身の変化とケアのポイント			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	死にゆく人に関連したしくみ③終末期から「死」までの変化と特徴			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	死にゆく人に関連したしくみ④「死」に対するころの理解、医療職との連携			<ul style="list-style-type: none"> 本単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 			
評価方法	(1)授業の中で確認テストを4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				5%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	発表・作品	○	○		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	案納 賀世子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年・ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性として、1年次前期の「コミュニケーション技術Ⅰ」での基本的なコミュニケーション技術を生かし、様々な障害を持つ人に対して、障害の特性を理解し、コミュニケーションの方法を習得する。また障害の特性に応じた様々なコミュニケーションのあり方を考察することで、コミュニケーション技術が向上できる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害に応じたコミュニケーション技術について学び、手話や点字の基礎知識をつけることができる	
		○				基本のコミュニケーション技術を活用し、多職種との連携・協力の重要性を説明することができる。	
		○				チームコミュニケーションのなかで、記録・「報・連・相」を身に着けることができる	
		○				障害に応じた利用者の様子から、チームでのコミュニケーション技術を活用することができる。	
			○			他者からの助言が無くても、利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1年次のコミュニケーション技術の復習とオリエンテーション					
	2	相談・助言・指導の技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	利用者の意欲を引き出す技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	チームで行うコミュニケーション技法①:記録				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	チームで行うコミュニケーション技法②:報告・連絡・相談・会議				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	利用者と家族の意向を調整する技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	コミュニケーション障害のある人の対応 :視覚障害(点字)					
	9	コミュニケーション障害のある人の対応 :視覚障害(点字)					
	10	コミュニケーション障害のある人の対応 :視覚障害(点字)					
	11	コミュニケーション障害のある人の対応 :視覚障害(点字)					
	12	コミュニケーション障害のある人の対応 :聴覚障害(手話)					
	13	コミュニケーション障害のある人の対応 :聴覚障害(手話)					
	14	コミュニケーション障害のある人の対応 :聴覚障害(手話)					
15	コミュニケーション障害のある人の対応 :聴覚障害(手話)						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				85%
	小テスト	◎	◎				10%
	授業態度・忘れ物・居眠り等				◎		5%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	医療ソーシャルワーク論						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	16時間	担当者	藤 洋介		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科						
授業概要	○医療機能の分化が進み、また地域包括ケアシステムの推進により、MSWの支援も職場によって異なる現状がある。保険医療機関の違いを知り、それによって関わる時間や内容の異なるMSWの業務に差異が生じる事もあるが、どの機能の医療機関で働くにも必要なMSWとしての姿勢や業務指針基本的な業務について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					・MSWの専門的視点を身につけ、役割や倫理、姿勢を学び説明する事ができる	
		○				・医療機関の特徴や機能を理解し、医療機関内での相談や課題に対応し、援助を行う方法について学び、援助方法を考える事ができる	
		○				・保健医療機関における専門職の役割と実際、他職種との協働について理解し必要性を説明できる	
				○		・演習やグループワークの中で自身の考えを発言する事ができる	
テキスト・教材 参考図書	保健医療サービス第4版(中央法規) 医療ソーシャルワーク 実践テキスト(日総研)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	MSWについて知る、MSWの業務指針や業務の実際			自分なりのMSW像をイメージして参加する		
	2	対象者を理解する、利用者理解の方法、生活者を支援する視点を学ぶ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	保険医療機関の機能分化について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	社会資源の活用について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	MSW実践の基本について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	地域包括ケアシステムについて			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	事例検討・演習			MSWとして大切だと考える姿勢や態度を考えて演習に参加する		
	8	まとめ MSWについて			授業を通してMSWに対するイメージ、知見がどのように変化したかを確認するので自身の考えをまとめておく		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中でレポートを数回実施する (2)グループワーク、演習を数回実施する (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト						0%
	宿題・レポート	○	◎		○		10%
	演習時の意欲・態度等		○		◎		10%
	授業態度・意欲等				◎		10%
履修上の注意	出席が5回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	医療的ケア(前期)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	17時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2119年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年・ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。 さらに業務として喀痰吸引と経管栄養が加わり、この授業では、医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得することを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことになった背景などを学び説明できる	
	○					医療的ケアを安全に実施するための基礎知識を学び医療職との連携の重要性を説明できる	
	○	○				喀痰吸引に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
	○	○				経管栄養に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
	○	○	○	○		医療的ケアの実技ができる	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座15 医療的ケア ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 医療的ケア実施の基礎 第1節 医療的ケアとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	喀痰吸引等制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	第2節 安全な療養生活 救急蘇生①救急蘇生の必要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	救急蘇生②救急蘇生の方法 緊急時の対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	実技試験 救急蘇生法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	第3節 清潔保持と感染予防①感染とは 介護職の感染予防			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	清潔保持と感染予防②消毒と滅菌 手袋・マスク等の装着法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	健康状態の把握①身体精神の健康状態を知る			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	健康状態の把握② 演習バイタル測定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	第2章 喀痰吸引(基礎的知識) 第1節 喀痰吸引概論①呼吸のしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ② 喀痰吸引とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ③ 人工呼吸器と吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ④ 子どもの吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ⑤ 利用者家族の気持ち			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ⑥ 急変事故発生時の対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	16	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説① 物品確認			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
17	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説② 演習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループ発表を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)実技試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				75%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	グループワーク・発表	○	○		◎		5%
	演習	○	○		◎	△	5%
実技試験	◎	◎				10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	医療保険概論						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	16時間	担当者	藤 洋介		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーク科 2学年						
授業概要	○保険医療機関で働く医療ソーシャルワーカーにとって、医療法及び医療制度、診療報酬の知識は必要不可欠な知識である。しかし、病院組織内では他職種との業務分担が図られており、退院支援に多くの時間を要する現場も多い。そのような中では、医療制度や診療報酬制度について、業務を通じて知見を深める事が難しい現場も少なくはない。医療制度や診療報酬を読み解く事で、業務が効率的に進む事や患者家族との円滑なコミュニケーションに役立つ場面も多い為、この授業ではそれらの知識習得の必要性や学び方を講義、演習を通して学んでいく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					・MSWIに求められる医療保険制度及び医療を取り巻く環境を理解することができる	
		○				・MSWIに必要な診療報酬について理解を深め、どのように活用するか考える事ができる	
				○		・医療サービスが提供されている仕組みについて理解して概要を説明する事ができる	
テキスト・教材 参考図書	保健医療サービス第4版(中央法規)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障と医療制度、日本の社会保障の現状の基礎知識			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	医療費の仕組み			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	3	診療報酬の仕組み 概要・機能・役割について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	4	診療報酬の仕組み 病院理解、MSWIに関わる診療報酬			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	5	医療制度や診療報酬に関わる社会保障サービス 介護・障害分野			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	6	医療制度や診療報酬に関わる社会保障サービス 生活保護、その他制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	7	医療制度や社会保障サービスの活用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	8	まとめ			医療制度、社会保障について自身の考えをまとめる		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中でレポートを数回実施する (2)グループワーク、演習を数回実施する (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	○	◎		○		10%
	演習時の意欲・態度等		○		◎		10%
授業態度・意欲等				◎		10%	
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	介護過程各論Ⅱ(前期)								
科目名(英)									
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	平山恵子				
実施年度	2019年度	実施時期	前期/通年	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年								
授業概要	①実習体験の事例を通して、介護過程を理解する。 ②介護過程を通して、チームアプローチの重要性を理解する。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				実習体験事例を通して、個々に合った介護過程を展開できるようになる。			
テキスト・教材 参考図書	中央法規 9. 介護過程								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	介護過程総論の復習、事例紹介				1年次の復習をしておく			
	2	事例 フェイスシート記入							
	3	事例 状況シート記入							
	4	事例 状況シート記入							
	5	事例 アセスメント記入							
	6	事例 個別援助計画書記入							
	7	事例 個別援助計画書記入							
	8	事例 クラス内で発表							
	9	事例 クラス内で発表							
	10	介護実習の介護過程について、注意事項							
	11	演習を使って、介護実習Ⅱの介護過程の展開を振り返る							
	12	演習を使って、介護実習Ⅱの介護過程の展開を振り返る							
	13	介護実習Ⅱ 報告会準備							
	14	介護実習Ⅱ 報告会準備							
15	まとめ、振り返り								
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○					80%		
	小テスト								
	宿題・レポート								
	発表・作品				○		20%		
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。								

科目名	介護総合演習Ⅱ(前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期/通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	①これまで学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適用できる応用力・判断力を身につける。 ②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士としての理念、職業倫理、総合的な対応能力が身についている。	
	○					介護過程の展開が実習の場面でできる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護総合演習・介護実習」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	実習施設発表、定期券申請					
	2	調べ学習、自己紹介表記入					
	3	実習内容、目標設定					
	4	実習の決まりごと確認					
	5	事前挨拶・実習前審査					
	6	事前挨拶・実習前審査					
	7	プロセスレコード記入方法					
	8	カンファレンス記入方法					
	9	帰校日(実習2週目)					
	10	帰校日(実習3週目)					
	11	帰校日(実習4週目)					
	12	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	13	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	14	報告会準備					
15	介護実習Ⅱ 報告会						
評価方法	定期試験がないため授業、帰校日の出席、授業中の態度、意欲、努力、提出物(カンファレンスレポート、プロセスレコード、実習を終えて等)を評価対象とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	出席				○		50%
	提出物				○		50%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	経済学								
科目名(英)	Economics								
単位数	2	時間数	15	担当者	内田寛樹				
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年								
授業概要	経済学の基本に関して学習し、社会的な観点を持てるように様々な経済学の考え方を学ぶ。福祉の分野と経済の関係性にも触れ、人の生活と福祉がどのような関係なのか経済学からその歴史や哲学を学ぶ。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○		○		経済の基本的な考え方を身につける。			
	○	○		○		経済学と同時に社会的な観点についても考える力を身につける。			
	○	○		○		経済と福祉の関係の基本的な考え方を身につける。			
テキスト・教材 参考図書	『初歩から学ぶ経済入門』篠原総一郎・野間敏克・入谷純 有斐閣ブックス								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	経済学とは何だろう				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	2	経済主体				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	3	財とサービス				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	4	市場と価格の決まり方				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	5	需要曲線と供給曲線				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	6	価格の弾力性				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	7	機会費用の考え方				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	8	比較優位の原理				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	9	市場の失敗と政府の役割				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	10	独占とコンテストブル市場				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	11	失業とケインズ経済学(福祉の考え方を含めて)				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	12	有効需要の原理				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	13	ケインズの政策的問題点				教科書の該当部分を読んでおくこと			
	14	ケインズと福祉国家(1)				ケインズ経済学と福祉の関係について書かれたものを少しでも触れておくこと			
15	ケインズと福祉国家(2)				ケインズ経済学と福祉の関係について書かれたものを少しでも触れておくこと				
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○		○		80%		
	小テスト	○			○		20%		
	宿題・レポート								
	発表・作品								
履修上の注意	授業前に教科書を事前に読んでくることを強くおすすめします。								

科目名	障害の理解(前期)						
科目名(英)	Understanding of Disorders						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田中優子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉士科 1年 ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	障害の概念や障害者福祉の歴史を踏まえ、障害者支援の基礎となる関係法規や障害者福祉の理念を理解する。障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)の特性について理解し生活上の支援の在り方を学ぶ。障害者やその家族に対する関わり・支援の基礎を理解する。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害者福祉に関する制度や専門用語、公的支援や疾患の概要を理解する	
		○				障害者福祉制度と介護保険制度の共通点と相違点について理解する	
		○				障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について理解する	
		○				障害者への社会資源や家族へのサポートのありかたについて理解する	
				○		障害者の個別の事例について考え支援の在り方について意見を述べる事が出来る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	障害の概念と障害者福祉の基本概念・・・ICFについて理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
	2	障害者福祉の基本理念・・・ノーマライゼーションの思想				教科書の当該範囲を読んでおく	
	3	障害者福祉に関連する制度・・・歴史・サービス・法律の概要				教科書の当該範囲を読んでおく	
	4	障害者福祉と介護保険制度の違いや両制度の併用のしくみについて				教科書の当該範囲を読んでおく	
	5	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること	
	6	障害のある人の心理・・・人間の欲求や適応機制について学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく	
	7	肢体不自由の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
	8	視覚障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
	9	聴覚・言語障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
	10	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ①				教科書の当該範囲を読んでおく	
	11	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ②				教科書の当該範囲を読んでおく	
	12	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ③				教科書の当該範囲を読んでおく	
	13	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ④				教科書の当該範囲を読んでおく	
	14	重症心身障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
15	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること		
評価方法	(1) 毎回ミニテストを行う。(2) 定期テスト(筆記)を実施する。評価はS(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		10%
	宿題・レポート				○		10%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術Ⅱ（居住環境の整備）									
科目名(英)										
単位数		時間数	10時間	担当者	田上 美里					
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科									
授業概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践ができるように知識・技術を学習する。 その為に住まいの役割と機能、加齢と生活空間、快適な室内空間のあり方などを学ぶ。 福祉用具について正しい知識を学び適切に使用できるように助言できるようになる。</p>									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報		知的技能		運動技能		態度意欲		その他	目標
		○								住まいの役割について理解し、快適な居住環境について理解する。
	○									高齢者・障害者に居住環境の特性について説明できる。
	○									災害時に対する備えの重要性について理解する。
	○									介護サービスの提供においてなぜ快適な居住環境が必要なのか説明できる。
○										住環境の整備における多職種との連携の必要性を説明できる。
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 4 一介護の基本Ⅱ									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	オリエンテーション 住まいの役割と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	2	生活空間				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	快適な室内環境				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	安全に暮らすための生活環境				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	高齢者の住まい				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	障害者の住まい				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	居住環境の整備における多職種との連携				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	8	福祉用具の重要性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	福祉用具の種類				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	適切な福祉用具を選ぶために視点				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	11									
	12									
	13									
	14									
15										
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の観点・割合で評価する。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	○				80%			
	小テスト	◎	◎				5%			
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%			
	発表・作品				◎		10%			
履修上の注意	出席が7回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ-①						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	棧原弘司		
実施年度	2019	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく -①相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	◎					相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の過程についての知識を説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の過程における技術を使用することができる。	
	◎					相談援助における事例分析の意義・方法について説明することができる。	
	○	◎		○		相談援助活動の実際における留意点を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」Ⅰ・Ⅱ(株ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「ソーシャルワークの理論と方法」とは何か -ソーシャルワーカーに求められる専門性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	地域を基盤としたソーシャルワークの視点 -ソーシャルワークにおける「地域基盤」の意味内容			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	地域を基盤としたソーシャルワークの視点 -ソーシャルワークの基本視座(アウトリーチを含む)、機能、特質			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	相談援助過程(導入期) -意義・定義・目的と基本的視点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	相談援助過程(導入期) -展開と課題・留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	相談援助過程(アセスメント) -意義・定義・目的と基本的視点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	相談援助過程(アセスメント) -情報収集の原則と内容			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	相談援助過程(アセスメント) -【演習】情報収集ツールの理解と実際の利用			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	9	相談援助過程(アセスメント) -ニーズの定義とその捉え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	相談援助過程(支援計画の作成) -意義・定義・目的、枠組みと展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	相談援助過程(支援計画の実施(モニタリング)) -意義・定義・目的、枠組みと展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	相談援助過程(評価) -意義・定義・目的、方法・留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	相談援助過程(終結) -意義・定義・目的、方法・留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	相談援助におけるクライアント理解の方法 -治療モデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	相談援助におけるクライアント理解の方法 -生活モデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを2回実施する。(3)事例検討・発表を7回実施する。*成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				10%
	発表(演習成果発表)	○	◎		○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ-②						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	棧原弘司		
実施年度	2019	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく -①相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の過程についての知識を説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の過程における技術を使用することができる。	
	◎					相談援助における事例分析の意義・方法について説明することができる。	
	○	◎		○		相談援助活動の実際における留意点を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」Ⅰ・Ⅱ(株ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	相談援助におけるクライアント理解の方法 -ストレングスモデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17	相談援助アプローチの概要 -心理社会的アプローチ・機能的アプローチの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	18	相談援助アプローチの概要 -問題解決アプローチ・危機介入アプローチ・行動変容アプローチの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	相談援助アプローチの概要 -課題中心アプローチ・エンパワメントアプローチ・エコロジカルアプローチの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	20	相談援助アプローチの概要 -構成主義アプローチ・解決志向アプローチ等の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21	相談援助アプローチの概要 -【演習】 相談援助アプローチの実際の理解と具体的な検討(複数アプローチ使用による検討)			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	22	相談援助の方法 -ケースマネジメント及びケアマネジメントの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	相談援助の方法 -グループ支援の基本的性格、機能・構造			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	24	相談援助の方法 -グループ支援の実践原則、展開過程			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25	相談援助の方法 -家族支援の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	26	相談援助の方法 -【演習】 家族支援の実際の理解と具体的(多問題家族)事例の検討			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	27	相談援助の方法 -ネットワークングの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
28	相談援助の方法 -地域支援(コミュニティケア)の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
29	相談援助の方法 -ソーシャルアクションの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
30	前期(第1回～第29回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト			教科書の該当範囲の復習をしておくこと			
評価方法	(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを2回実施する。(3)事例検討・発表を7回実施する。*成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				10%
	発表(演習成果発表)	○	◎		○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名		社会福祉援助技術論Ⅱ-③						
科目名(英)								
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	棧原弘司			
実施年度	2019	実施時期	通年	実務家教員担当科目	○			
対象学科・学年		ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要		地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく -①相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる。						
授業形式		講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)		目標						
		◎				相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について説明できる。		
		○	◎		○	相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。		
		○	◎		○	相談援助の過程についての知識を説明できる。		
		○	◎		○	相談援助の過程における技術を使用することができる。		
		◎				相談援助における事例分析の意義・方法について説明することができる。		
		○	◎		○	相談援助活動の実際における留意点を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書		「ソーシャルワークの理論と方法」Ⅰ・Ⅱ(株ミネルヴァ書房)						
授業計画		回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
		31	人間と環境の理解 ー 行動と環境、環境システムの理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		32	人間と環境の理解 ー 相互作用と交互作用、組織・コミュニティの理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		33	ソーシャルワークの構造 ー 相談援助の対象、社会資源の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		34	ソーシャルワークの機能 ー ソーシャルワーカーの機能・役割の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		35	ソーシャルワークの機能 ー 具体的機能(調整的機能・開発的機能・代弁的機能・教育的機能他)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		36	ソーシャルワーク面接の意義・定義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		37	ソーシャルワーク面接の構成要素			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		38	ソーシャルワーク面接のプロセス ー 開始～展開段階			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		39	ソーシャルワーク面接のプロセス ー 最終段階～評価			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		40	ソーシャルワーク面接におけるアプローチの適用 ー 治療モデルに拠るアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		41	ソーシャルワーク面接におけるアプローチの適用 ー 生活モデルに拠るアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		42	ソーシャルワーク面接におけるアプローチの適用 ー ストレングスマodelに拠るアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		43	ソーシャルワーク面接の方法 ー [演習] 個別面接の実際と具体的(障害児支援)事例の検討			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
		44	ソーシャルワーク面接の方法 ー [演習] 家族面接の実際と具体的(障害児支援)事例の検討			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
45	ソーシャルワークにおける援助関係 ー 援助関係形成と活用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
評価方法		(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを2回実施する。(3)事例検討・発表を7回実施する。*成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	○				80%
		小テスト	◎	○				10%
		発表(演習成果発表)	○	◎		○		10%
履修上の注意		出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名		社会福祉援助技術論Ⅱ-④						
科目名(英)								
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	棧原弘司			
実施年度	2019	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○			
対象学科・学年		ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要		地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく -①相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる。						
授業形式		講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)		目標						
		◎				相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について説明できる。		
		○	◎		○	相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。		
		○	◎		○	相談援助の過程についての知識を説明できる。		
		○	◎		○	相談援助の過程における技術を使用することができる。		
		◎				相談援助における事例分析の意義・方法について説明することができる。		
		○	◎		○	相談援助活動の実際における留意点を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書		「ソーシャルワークの理論と方法」Ⅰ・Ⅱ(株ミネルヴァ書房)						
授業計画		回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
		46	スーパービジョン -歴史、意義・定義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		47	スーパービジョン -機能・構造、形態・内容			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		48	スーパービジョン -[演習] スーパービジョンの実際と具体的(新人ケースワーカー指導)事例の検討			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
		49	コンサルテーション -歴史、意義・定義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		50	コンサルテーション -機能・構造、形態・内容			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		51	コンサルテーション -[演習] コンサルテーションの実際と具体的(施設処遇改善)事例の検討			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
		52	ソーシャルワーク記録 -意義・定義、方法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		53	ソーシャルワーク記録 -個人情報保護の意義と留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		54	ソーシャルワーク事例研究 -意義・目的、構成要素・枠組み			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		55	ソーシャルワーク事例研究 -「事例のまとめ」の様式・方法、論点・展望			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		56	ソーシャルワークとICT -活用と効果・弊害(課題・留意点)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		57	ソーシャルワークの動向と課題 -社会的要請とその応答(理論枠組みの強化、ジェネラリスト・ソーシャルワークの確立)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
		58	ソーシャルワークの動向と課題 -社会的要請とその応答(ソーシャルワーカー養成の充実、権利擁護の推進他)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
59	ソーシャルワークの動向と課題 -社会的要請とその応答(ソーシャルワークの社会的承認、多職種連携の推進他)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
60	後期(第31回～第59回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト			教科書の該当範囲の復習をしておくこと				
評価方法		(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを2回実施する。(3)事例検討・発表を7回実施する。*成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	○				80%
		小テスト	◎	○				10%
		発表(演習成果発表)	○	◎		○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。							

科目名	生活支援技術・応用Ⅱ-①						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	田上・吉水・案納・豆田		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年・ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	障害の形態や状況に応じて、利用者のニーズに応えられる介護支援を行えるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○		○	○		疾患を理解した介助、安全面の配慮ができる。	
	○	○				疾患を理解した生活上の困りごとを説明できる。	
	○	○				家族や本人の背景に配慮した自分の見解を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術 中央法規 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	経営、家計(吉水)					
	2	経営、家計(吉水)					
	3	経営、家計(吉水)					
	4	災害(吉水)					
	5	災害(吉水)					
	6	災害(吉水)					
	7	運動機能障害(豆田)					
	8	運動機能障害(豆田)					
	9	運動機能障害(豆田)					
	10	運動機能障害(豆田)					
	11	運動機能障害(豆田)					
	12	心臓機能障害(案納)					
	13	心臓機能障害(案納)					
	14	心臓機能障害(案納)					
15	心臓機能障害(案納)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を行いレポートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	演習		○	○	○		20%
	レポート	○	○		○		30%
履修上の注意	演習時忘れ物をしないこと。評価に関わる項目で、意欲的な取り組みが見られない場合は、欠課扱いとする。						

科目名	生活支援技術・応用Ⅱ-②						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	田上・吉水・案納・豆田		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年・ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	障害の形態や状況に応じて、利用者のニーズに応えられる介護支援を行えるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○		○	○		疾患を理解した介助、安全面の配慮ができる。	
	○	○				疾患を理解した生活上の困りごとを説明できる。	
	○	○				家族や本人の背景に配慮した自分の見解を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術 中央法規 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	呼吸器機能障害(案納)					
	17	呼吸器機能障害(案納)					
	18	呼吸器機能障害(案納)					
	19	呼吸器機能障害(案納)					
	20	知的障害(田上)					
	21	知的障害(田上)					
	22	知的障害(田上)					
	23	知的障害(田上)					
	24	発達障害(吉水)					
	25	発達障害(吉水)					
	26	発達障害(吉水)					
	27	発達障害(吉水)					
	28	重症心身障害(豆田)					
29	重症心身障害(豆田)						
30	重症心身障害(豆田)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を行いレポートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	演習		○	○	○		20%
	レポート	○	○		○		30%
履修上の注意	演習時忘れ物をしないこと。評価に関わる項目で、意欲的な取り組みが見られない場合は、欠課扱いとする。						

科目名	生活支援技術・応用Ⅱ-③								
科目名(英)									
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	田上・吉水・案納・豆田		
実施年度	2019年度		実施時期	通年(後期)		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年・ソーシャルワーカー科2年								
授業概要	障害の形態や状況に応じて、利用者のニーズに応えられる介護支援を行えるようになる。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					国家試験過去問に正答できる。			
	○		○	○		疾患を理解した介助、安全面の配慮ができる。			
	○	○				疾患を理解した生活上の困りごとを説明できる。			
	○	○				家族や本人の背景に配慮した自分の見解を述べるができる。			
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術 中央法規 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	31	腎機能(案納)							
	32	腎機能(案納)							
	33	腎機能(案納)							
	34	腎機能(案納)							
	35	肝機能障害(案納)							
	36	肝機能障害(案納)							
	37	肝機能障害(案納)							
	38	精神障害(吉水)							
	39	精神障害(吉水)							
	40	精神障害(吉水)							
	41	精神障害(吉水)							
	42	精神障害(吉水)							
	43	高次脳機能障害(豆田)							
	44	高次脳機能障害(豆田)							
45	高次脳機能障害(豆田)								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を行いレポートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○					50%		
	演習		○	○	○		20%		
	レポート	○	○		○		30%		
履修上の注意	演習時忘れ物をしないこと。評価に関わる項目で、意欲的な取り組みが見られない場合は、欠課扱いとする。								